

基本情報

所属	現代ビジネス 学部 地域経済学科	氏名	崔 錦 珍 Choi Keumjin
職名	教授	E-mail	choi@cb.kiu.ac.jp
		研究室ウェブサイト	

■ 学歴・取得学位

1989(平成元年)年2月	西京大学校日語日文学科卒業 文学士
1986(昭和61)年3月	慶熙大学校経営大学院観光経営学科修了 経済学修士
1989(平成元)年3月	漢陽大学校大学院観光学科博士課程後期課程 単位取得満期退学
2007(平成19)年3月	立教大学観光学研究科博士課程後期課程修了 観光学博士

■ 主な職歴

1988(昭和63)年12月 ～1993(平成5)年4月	南ソウルホテル(現 The Ritz-Carlton, Seoul)営業部
2008(平成20)年2月 ～2009(平成21)年3月	立教大学プログラムコーディネーター・兼任講師
2009(平成21)年4月 ～2012(平成24)年3月	神戸国際大学経済学部専任教員
2012年(平成24年)4月～	九州国際大学現代ビジネス学部教員

教育活動

■ 主な担当授業科目

○ 学 部：観光マーケティング論、観光概論、ホテル・マネジメント論、
入門セミナー、専門演習、卒業プロジェクト

■ 教育上の特記事項

- 教科書・教材：
- 教育活動：
- 免許・資格：

研 究 活 動

■ 研究分野

研究分野	観光学（組織管理、サービスマーケティング）
主な研究テーマ	感情労働がホテル従業員の職務満足に与える影響
キーワード	感情消耗、感情不調和、組織支援

■ 主な著書・論文等

<p>著書</p> <ul style="list-style-type: none"> ○（共訳）『質的研究方法』（翻訳書：韓国語）ハンウルアカデミー，2009年3月．A5判 535頁，担当部分：3章テキストの構成と理解（70-88p） 8章半構造インタビュー（147-182p） 15章コーディングとカテゴリ化（312-346p） 17章テキスト会釈の概要（373-381p） 21章質的研究と量的研究（456-470p）． ○（共著）『観光学経営』 岡本伸之編著 朝倉書店 2013年10月 A5判 208頁，担当部分：13.4 / 13.5（156-163p）
<p>論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ○（単）「感情労働がホテル従業員の職務態度に及ぼす影響」立教大学博士学位論文、2007年3月． ○（単）「ホテル従業員の感情不調和が職務態度に及ぼす影響」『日本国際観光学会論文集』 第14巻，27-33頁，2007年3月【査読有】 ○（単）「日本のホテル従業員の感情不調和の発生原因に関する研究（韓国語）」『韓国日本近代学会論文集』，第17巻，235-254頁，2007年8月．【査読有】 ○（単）「接客場面でのストレス対処法が感情消耗に及ぼす影響 -日大のホテルの接客従業員を中心に-」『Ceri エンタテインメント研究論文集』（韓国）第8巻，111-135頁，2007年12月．【査読有】 ○（共）「日本のホテル業における正規・非正規社員の職務意識に対する比較」『観光・レージャ研究（韓国）』第20巻3号，319-338頁，2008年8月．【査読有】 ○（共）「感情労働のプロセスおよび影響要因に関する研究」『観光研究（韓国大韓観光経営学会）』第23巻4号，199-218頁，2009年2月．【査読有】 ○（共）「組織のサービス志向性がホテル従業員の感情消耗に及ぼす影響」『日本国際観光学会論文集』第18巻，33-39頁，2011年3月．【査読有】 ○（共）「サブカルチャーによる文化産業クラスターの観光地化」『観光・レージャ研究（韓国）』第24巻2号，385-404頁，2012年2月．【査読有】 ○（共）「「世界の7大自然景観」選定の意義と課題」『東北亜観光研究（韓国）』第8巻4号，1-28頁，2012年11月．【査読有】 ○（共）「CIT を利用したツアーコンダクターの感情労働の要因に関する考察」『東北亜観光研究（韓国）』第9巻2号，203-223頁，2013年5月．【査読有】 ○（共）「「ツアーコンダクター」の感情労働が職務態度に及ぼす影響」『観光研究（韓国大韓観光経営学会）』第28巻4号，47-65頁，2013年10月．【査読有】 ○（共）「日本観光客の熟知性と釜山の観光イメージ研究」『平和学研究（韓国）』（韓国平和研究学会） 第15巻1号，214-260頁，2014年3月．

- (共)「九州の観光イメージと親密性に関する研究 —プサンの大学生を中心として」『東北亜観光研究 (韓国)』第 10 巻 3 号, 271-293 頁, 2014 年 8 月. 【査読有】
- (共)「ドラマ『アイリス』秋田ロケによるフィルムツーリズムの発生とその構造」『観光研究 (日本観光研究学会)』第 27 巻 1 号, pp. 79- 89 頁, 2015 年 9 月. 【査読有】
- (共)「大阪の観光イメージ調査分析」『東北亜観光研究 (韓国)』第 11 巻 4 号, 257-275 頁, 2015 年 11 月. 【査読有】
- (共)「新型コロナウイルス感染症に対する知覚リスクが旅行行動に与える影響」『東北亜観光研究 (韓国)』第 17 巻 54 号, 251-272 頁, 2021 年 8 月. 【査読有】

学会発表

- (単)「感情労働がホテル従業員の職務態度に及ぼす影響(韓国語)」『韓国日本近代学会第 15 回国際学術大会発表論文集』, 311-321 頁, 2007 年 5 月.
- (共)「秋田県の観光地における「アイリス効果」とは？」『日本観光研究学会全国大会研究発表論文集』, 27 号, 313-316 頁, 2012 年 12 月.
※平成 24 年度科学研究費助成事業 基盤 C 課題番号 24611020 に基づく研究発表
- (共)「관광자행동과 영상미디어의 영향 -드라마 아이리스를 중심으로 -」(観光者の行動と映像メディアの影響-ドラマ「アイリス」を中心として) Northeast Asia Tourism Conference in Kitakyushu City, pp. 49-53, 2014 年 8 月.
※平成 24 年度科学研究費助成事業 基盤 C 課題番号 24611020 に基づく研究発表
- (共)「관광자행동과 영상미디어의 영향 -드라마 아이리스를 중심으로 -」(観光者の行動と映像メディアの影響-ドラマ「アイリス」を中心として) (韓国語)『Northeast Asia Tourism Conference in Kitakyushu City』, 49-53 項, 2014 年 8 月.
※平成 24 年度科学研究費助成事業 基盤 C 課題番号 24611020 に基づく研究発表.
- (共)「大阪の観光イメージ調査分析—韓国人を中心に—」『2015 International Tourism Conference in Ulaanbaatar 9th TINA, Tourism Institute of Northeast Asia Proceeding』, 30-35 頁, 2015 年 8 月.
- (共)「「フィルムツーリズム」における韓国旅行の不満事項」『日本国際観光学会第 19 回全国大会発表論文集』 34-35 頁, 2015 年 10 月.
※この研究は JSPS 科研費 15K01963 の助成を受けたものである.
- (共)「「ファンツーリズム」の実態—アイドルファンへの聞き取り調査から—」『第 30 回日本観光研究学会全国大会学術論文集』 281-284 頁, 2015 年 11 月.
※この研究は JSPS 科研費 15K01963 の助成を受けたものである.
- (共)「ファン行動の発展段階とファンツーリズム」第 31 回日本観光研究学会全国大会学術論文集, 273-276 項, 2016 年 12 月.
※この研究は JSPS 科研費 15K01963 の助成を受けたものである.
- (共)「ファンツーリズムにおけるコミュニケーション —宮城県利府町での大規模コンサートを事例として—」第 31 回日本観光研究学会全国大会学術論文集, 473-476 項, 2016 年 12 月.
※この研究は JSPS 科研費 15K01963 の助成を受けたものである.
- (共)「ファンとファンツーリズム受入地域の相互作用 —アイドルグループのメガコンサートを事例として —」第 16 回ホスピタリティ教育学会全国

大会発表集, 3-6 項, 2017 年 2 月.

※この研究は JSPS 科研費 15K01963 の助成を受けたものである.

- (共) 「ファンツーリズムと外国人ファンの行動分析」 International Conference by Tourism Institute of Northeast Asia, Vladivostok, Russia, 41-46 頁, 2017 年 5 月.
- (共) 「ファンの宿泊を伴う『遠征』行動とファンツーリズム」 第 32 回日本観光研究学会全国大会学術論文集, 121-124 頁, 2017 年 12 月.

その他

[研究ノート]

- (共) 「Who Are the Tourists Motivated by the Korean Drama “IRIS” ?」 『立教大学観光学紀要』 第 16 号, 132-135 頁, 2014 年 3 月. 【査読有】
- (共) 「日本におけるロケ地めぐり観光研究の動向と用語の整理」 『立教大学観光学紀要』 第 17 号, 45-51 頁, 2015 年 3 月. 【査読有】
- (共) 「日本におけるファンツーリズム行動研究の動向」 『立教大学観光学部紀要』 第 18 号, 1-9 頁, 2016 年 3 月. 【査読有】
- (共) 「ファンツーリズムの基本的構造 —アイドルファンへの聞き取り調査から—」 『立教大学観光学紀要』 第 20 号, 123-131 頁, 2018 年 3 月. 【査読有】
- (単) 「オーバーツーリズムの発生と持続可能な観光発展の課題」 『九州国際大学国際・経済論集』 第 5 号, 193-206 頁, 2020 年 3 月.

■ 大学就任以前の主な業務上の実績

--	--

■ 主な所属学会

日本観光研究学会、日本国際観光学会、동북아관광학회東北亜観光学会 (韓国)

■ 受賞等

--	--

■ 研究助成金による研究

- 科学研究費補助金 基礎研究(C) 分担研究者 課題番号 15K01963
2015 年度～2017 年度

社会における活動等

- 外部委員
- 講演会パネラー
- その他

大学運営活動等

- 教務委員
- その他

